

米国中期債運用戦略 ファンド (ダイワ投資一任専用)

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：米中期債戦略

2023年3月14日から2023年9月11日まで

第 **12** 期 決算日：2023年9月11日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

基準価額(期末)	11,155円
純資産総額(期末)	8,217百万円
騰落率(当期)	+0.6%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

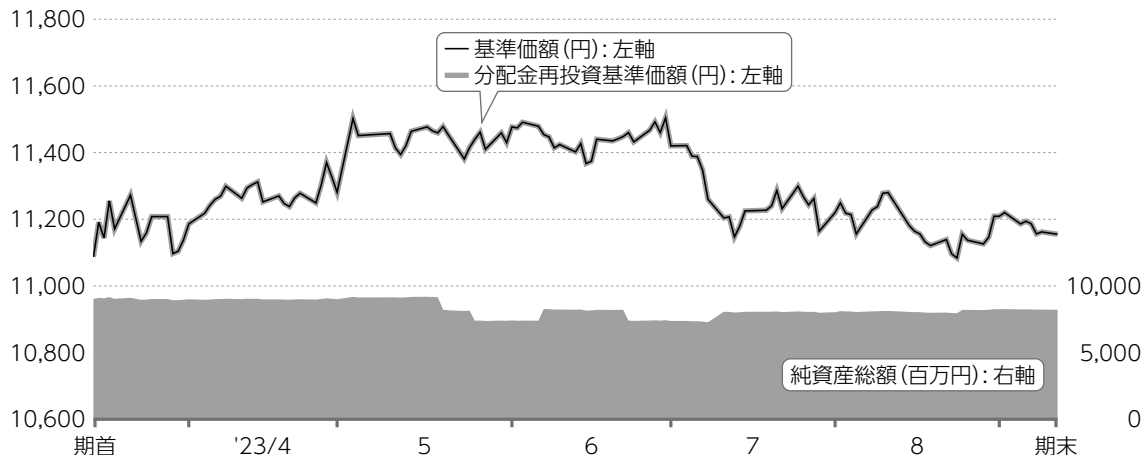
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	11,087円
期末	11,155円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	+0.6% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として残存期間が5～7年程度の米国債に投資を行いました。

実質的に保有する債券の利回り上昇は下落要因でしたが、米ドル円相場の上昇や実質的に保有する債券の利息収入が上昇要因となり、基準価額は上昇しました。

1万口当たりの費用明細(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	26円	0.230%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は11,297円です。
(投信会社)	(19)	(0.164)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(6)	(0.055)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.011)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.013	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.007)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	27	0.242	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

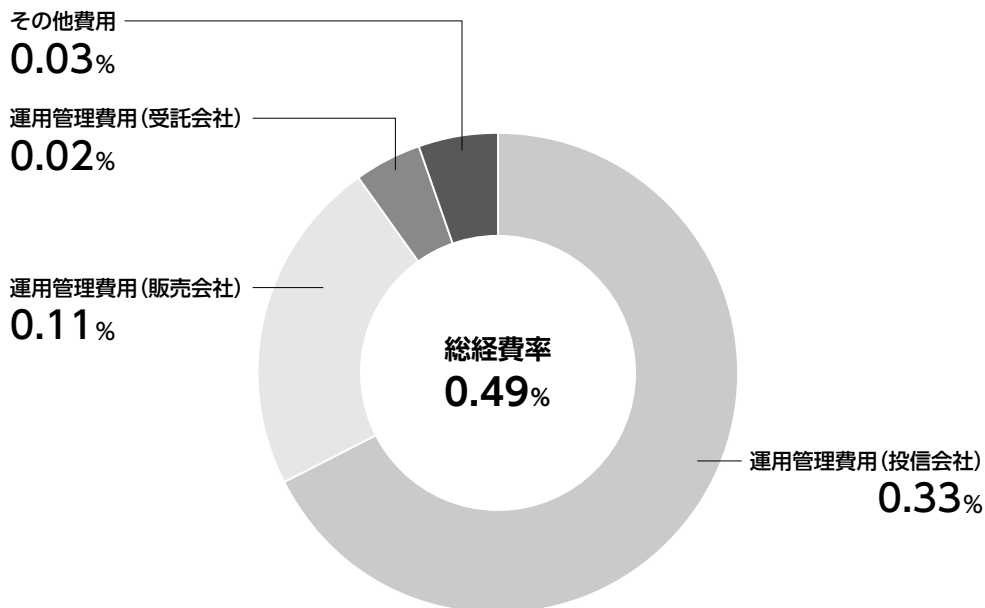
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

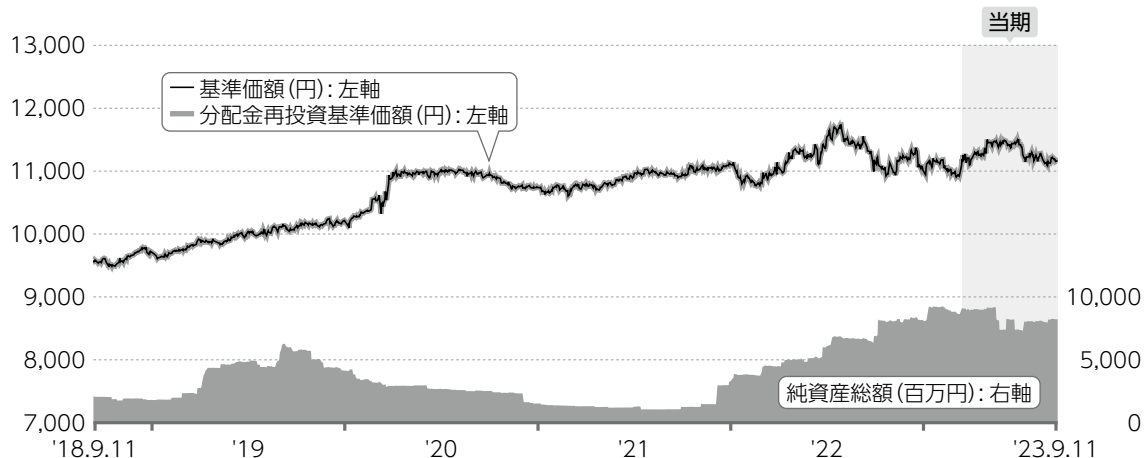
※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は0.49%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年9月11日から2023年9月11日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年9月11日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.9.11 決算日	2019.9.11 決算日	2020.9.11 決算日	2021.9.13 決算日	2022.9.12 決算日	2023.9.11 決算日
基準価額	(円)	9,579	10,088	10,972	10,951	11,441	11,155
期間分配金合計(税引前)	(円)	-	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	-	5.3	8.8	-0.2	4.5	-2.5
純資産総額	(百万円)	2,131	6,102	2,551	1,066	6,678	8,217

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

米国債券市場は下落しました。為替市場では、米ドル円が前期末と比較して円安に振れました。

米国債券市場

米国5～7年の中期ゾーンの国債利回りは上昇(債券価格は下落)しました。期初から5月は、米シリコンバレー銀行などの破綻やスイスのクレディ・スイス・グループをめぐる経営危機などを背景に、利回り低下の動きとなりました。その後、6月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、年内に0.25%の利上げが2回ある可能性が示されたことや、FRB(米連邦準備制度理事会)議長やECB(欧州中央銀行)総裁から追加利上げが必要との発言があったこと、米国の雇用統計や小売売上高などの結果から米国経済の堅調さが示されたことなどを受け、利回りは上昇しました。

為替市場

米ドル円相場は円安に振れました。期初から6月は、米国で利上げが行われた一方で、日銀総裁が物価目標達成に慎重な見方を示したことなどを受け、円安が進行しました。7月上旬に一旦円高の動きとなりましたが、その後、米国経済の堅調さを示す経済指標の発表や、FOMC議事要旨での物価上昇を警戒する記載、日本政府・日銀による為替介入はすぐには行われなといった思惑などを背景に、円安の動きとなりました。日本では、7月下旬に金融政策の柔軟化が発表されましたが、日銀は今後も金融緩和を継続するとの見方などから、強い円高材料にはなりませんでした。

ポートフォリオについて(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

当ファンド

主要投資対象である「米国中期債運用戦略マザーファンド」を期を通じて高位に組み入れました。

米国中期債運用戦略マザーファンド

債券ポートフォリオは、5年～7年までの残存期間毎の米国債の組入比率がほぼ均等となるように構築し、残存期間の分散を図りました。

為替ヘッジ取引の判断にあたっては、大和証券株式会社からの助言を受けて以下の運用を行いました。ヘッジ比率は、20%台から90%台の範囲で調整しました。期初から6月前半にかけては主に20%台から50%台、6月後半は70%台としました。7月は上旬から中旬に40%台から50%台とし、その後は60%台から90%台としました。「守る為替ヘッジ戦略」は、主に30%台から60%台としました。「攻める為替ヘッジ戦略」は、3月下旬や7月中旬に円高に振れた場面で円安判定、6月後半や7月下旬から9月の月初付近に円高判定とし、「守る為替ヘッジ戦略」を基準にヘッジ比率を25%程度増減する調整を行いました。

ベンチマークとの差異について(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第12期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	1,792

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、運用の基本方針に従い、「米国中期債運用戦略マザーファンド」への投資を通じて、主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

米国中期債運用戦略マザーファンド

引き続き、債券ポートフォリオは、米国債5～7年のラダー型とします。

為替ヘッジ取引の判断にあたっては、引き続き、大和証券株式会社からの助言を受けて運用を行います。なお、投資助言者の運用方針は以下の通りです。為替ヘッジは「攻・守」合わせた戦略を適用します。「守る為替ヘッジ戦略」は常時適応し、債券価格と米ドル円レートが逆方向に変動する動きを捉え、安定した収益確保を図ります。さらに、米ドル円の市場データを分析した結果、追加収益獲得の機会と捉えた際は「攻める為替ヘッジ戦略」を機動的に適用し、「守る為替ヘッジ戦略」を基準にヘッジ比率を増減する調整を行います。

3 お知らせ

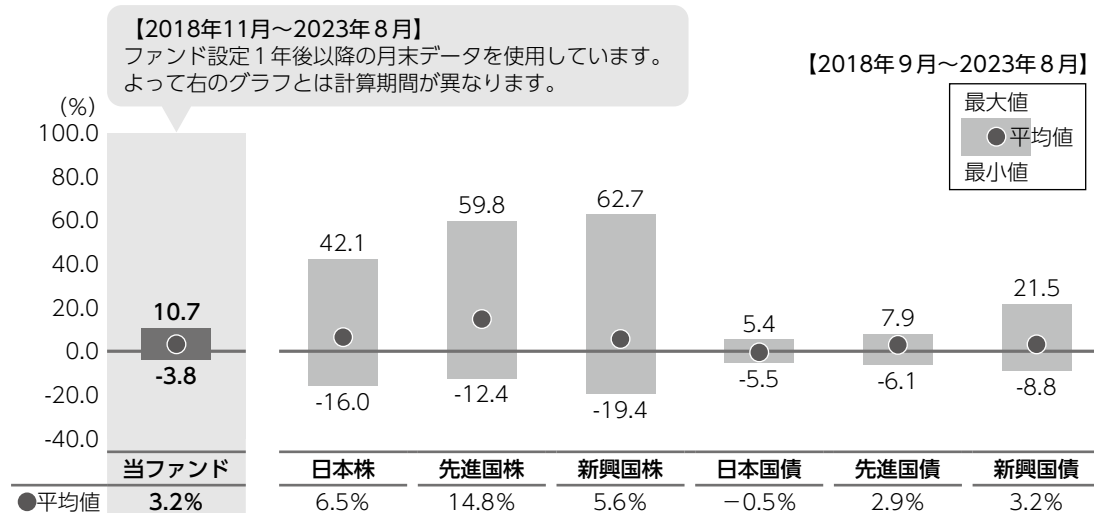
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券
信 託 期 間	2017年11月7日から2027年9月13日まで
運 用 方 針	マザーファンドへの投資を通じて、主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主 要 投 資 対 象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 米国中期債運用戦略マザーファンド 米国債
当 フ ァ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ■実質組入外貨建資産については、「守る為替ヘッジ戦略」と「攻める為替ヘッジ戦略」の組合せにより、最適な為替ヘッジ戦略を目指します。 ■当ファンドは、投資者と販売会社が締結する投資一任契約に基づいて、資産を管理する口座の資金を運用するためのファンドです。
組 入 制 限	<p>当ファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株式への実質投資は行いません。 ■外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 <p>米国中期債運用戦略マザーファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資は行いません。 ■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年2回(原則として毎年3月および9月の11日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</p> </div>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

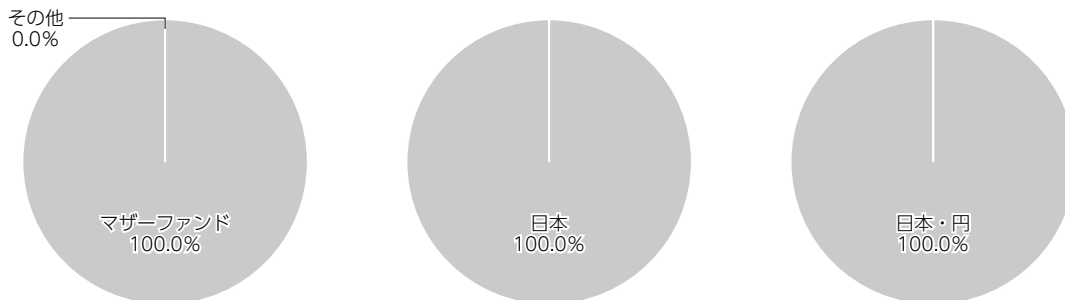
当ファンドの組入資産の内容(2023年9月11日)

組入れファンド等

銘柄名	組入比率
米国中期債運用戦略マザーファンド	100.0%
コールローン等、その他	0.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

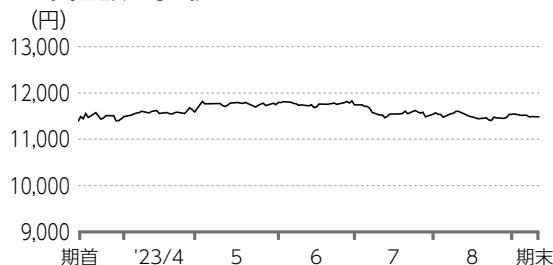
項目		第12期末 2023年9月11日
純資産総額	(円)	8,217,347,829
受益権総口数	(口)	7,366,478,285
1万口当たり基準価額	(円)	11,155

※当期における、追加設定元本額は1,798,789,456円、解約元本額は2,571,820,120円です。

組入上位ファンドの概要

米国中期債運用戦略マザーファンド(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

基準価額の推移



1万口当たりの費用明細

(単位：円)

項目	(内訳)	金額	(内訳)
その他費用	(保管費用)	1	(1)
	(その他)		(0)
合計		1	

※項目の概要については、前記「費用明細」をご参照ください。

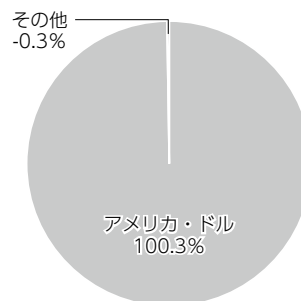
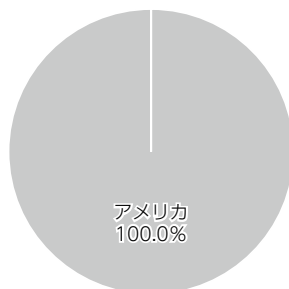
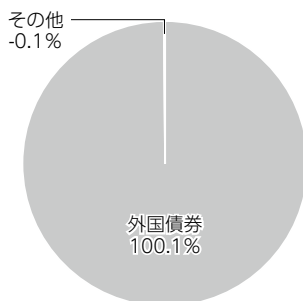
組入上位銘柄

(基準日：2023年9月11日)

	銘柄名	組入比率
1	US TREASURY N/B 3.125 08/31/29	25.0%
2	US TREASURY N/B 4.125 08/31/30	25.0%
3	US TREASURY N/B 1.875 02/28/29	25.0%
4	US TREASURY N/B 4 02/28/30	25.0%
	全銘柄数	4銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合です。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

※通貨別配分は為替ヘッジ前の比率です。外貨建資産に対して対円で為替ヘッジを行っています。

※基準日は2023年9月11日現在です。